

お茶の水女子大学 ライフワールド・ウオッチセンター  
増田研究室 2011年度活動報告

2012年3月1日

## 1. 理念と運営

知の市場の連携機関かつ開講機関であるお茶の水女子大学ライフワールド・ウオッチセンター増田研究室は知の市場の創始者として、知の市場の理念と運営の基本方針を共有し、受講者、講師、友の会、開講機関、連携学会、知の市場事務局などと協働しながら活動を展開している。そして、総合的な学習機会の提供、実践的な学習機会の提供、十分な情報提供と受講者の自己責任による自由な科目選択、大学・大学院に準拠した厳しい成績評価という知の市場が掲げる 4つの教育の基本方針の下で活動している。

また、お茶の水女子大学ライフワールド・ウオッチセンター増田研究室は、学生や院生に対する学校教育と社会人教育を切れ目なく連結しさらにプロ人材の育成と高度な教養教育を相互に補完しあうものとして接合することを目指す知の市場の目標を重視している。さらに、社会の全ての人々や組織が何らかの形で教育に関わり全員参加の中で各々の役割を果たして教育を支えていくことによって教育の世界と現実の世界が互いに重なり合いながら高めあっていく真の教育立国を求めて、津々浦々で諸々の役割を担う社会の現場の全てが教育の現場としてもそれぞれ多彩な輝きを放つ社会の構築に向かって進んでいく道を切り開こうとする知の市場の挑戦を高く評価している。

こうした基本認識に立ちつつお茶の水女子大学という背景を踏まえて、高度な教養教育を行うことを主眼としながらも知の市場の創始者として孵化（インキュベーション）機能を果たすことを目標としている。具体的には、新規科目の開拓などによる新たな分野への展開と社会の幅広い人々や機関との間の新たな協力関係の形成などによる新たな基盤の構築といった孵化機能及び学校教育と社会人教育を連結するといった構造改革の孵化機能を果たすことを目指している。

## 2. 2011年度の実績

### 2.1 開講科目と受講実績

2011年度は共催講座として7科目を開講したが、このうち5科目は新規開講科目であった。これらの新規開講科目は特許情報に係る科目、金融に係る科目、化学物質総合管理に係る科目、知的財産権に係る科目、そして放射線医学に係る科目であり、知の市場の展開を新たな分野に広げるものであった。こうしてお茶の水女子大学ライフワールド・ウオッチセンター増田研究室は、科目の編成及び講師陣の組織化において 2011年度も新規開拓の孵化機能を果たした。

一方、2011年度は関連講座としてお茶の水女子大学の学部学生や大学院生向けに単位対象科目として3科目を開講した。このうち社会技術革新学特論と安全管理概論は、知の市場

で得られた知見を活用しながら知の市場の講師が大学の正規の授業を行うものである。また、リベラルアーツの生活世界の安全保障の科目に位置づけられるリスク管理（演習）の2単位は、お茶の水女子大学の学部学生が共催講座のうちの1科目を社会人とともに受講する場合に履修届を提出することによって取得できることとした。これらはいずれも、社会の現場の視点を学校教育に取り入れる意味がある。こうしてお茶の水女子大学ライフワールド・ウォッチセンター増田研究室は2011年度も、学校教育の構造改革の孵化機能を果たした。

2011年度の共催講座の受講者の合計は207名で1科目当たりの受講者は30名であり、東日本大震災や福島の原子力発電所の事故などの影響もあり2010年度の共催講座の1科目当たりの受講者34名を下回ったがその影響を最小限におさえ、2011年度の知の市場全体の共催講座の1科目当たりの受講者27名を上回った。一方、関連講座の受講者の合計は128名で1科目当たりの受講者は43名であり、2010年度の関連講座の1科目当たりの受講者52名を下回ったが、知の市場全体の関連講座の1科目当たりの受講者41名を上回った。共催講座と関連講座を合計した全体の受講者の合計は335名で1科目当たりの受講者は48名であり、知の市場全体の1科目当たりの受講者35名を上回った。

表1 2011年度応募・受講状況一覧

| 区分   |    | 科目番号              | 科目名              | 応募者<br>(人) | 受講者<br>(人) | 修了者<br>(人) | 修了率<br>(%) |
|------|----|-------------------|------------------|------------|------------|------------|------------|
| 共済講座 | 前期 | 新規                | CT514 特許情報活用論    | 15         | 15         | 10         | 68         |
|      |    | 改訂                | CT531 国際石油論      | 15         | 15         | 6          | 40         |
|      |    | 新規                | CT541 金融特論       | 39         | 38         | 20         | 53         |
|      | 後期 | 改訂                | CT131a 農薬総合管理    | 14         | 13         | 2          | 15         |
|      |    | 新規                | CT133 化学物質総合経営概論 | 18         | 17         | 8          | 47         |
|      |    | 新規                | CT463 放射線医学特論    | 78         | 78         | 35         | 45         |
|      |    | 新規                | CT551 知的財産権論     | 32         | 31         | 8          | 26         |
| 合計   |    |                   |                  | 211        | 207        | 89         | 43         |
| 関連講座 | 通年 | リスク管理（演習） 《学部》（注） |                  | 10         | 10         | 7          | 70         |
|      | 通年 | 社会技術革新学特論 《学部》    |                  | 35         | 35         | 25         | 71         |
|      | 前期 | 安全管理概論 《学部》       |                  | 83         | 83         | 72         | 87         |
|      | 合計 |                   |                  |            | 128        | 128        | 104        |
| 総合計  |    |                   |                  | 339        | 335        | 193        | 58         |

（注）知の市場の共済講座のうちお茶の水女子大学で開講されるいずれかの科目を大学学部履修登録して受講した場合、リスク管理（演習）の2単位が取得できる。

## 2.2 応募者の属性

2011年度の共催講座の応募者の属性は次の通りである。

1) 年齢構成については、20～50歳の現役世代が2010年度の59%に対して、2011年度は増加して73%となった。知の市場全体では現役世代が約80%であるのに比べて、2010年度は低い割合であったのが2011年度は知の市場全体の傾向に近づいた。各科目別には、特許情報活用論、農薬総合管理、化学物質総合経営概論、知的財産権論では現役世代が約80～90%と大多数を占めている一方で、国際石油論、放射線医学特論では現役世代にとどまらず60代以上の応募者の割合が比較的高く、金融特論では60歳以上が5割を占め異彩を放っている。

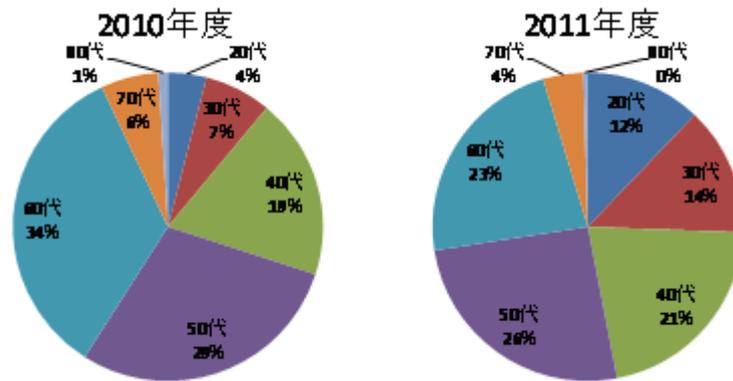


図1 応募者の属性：年齢分布

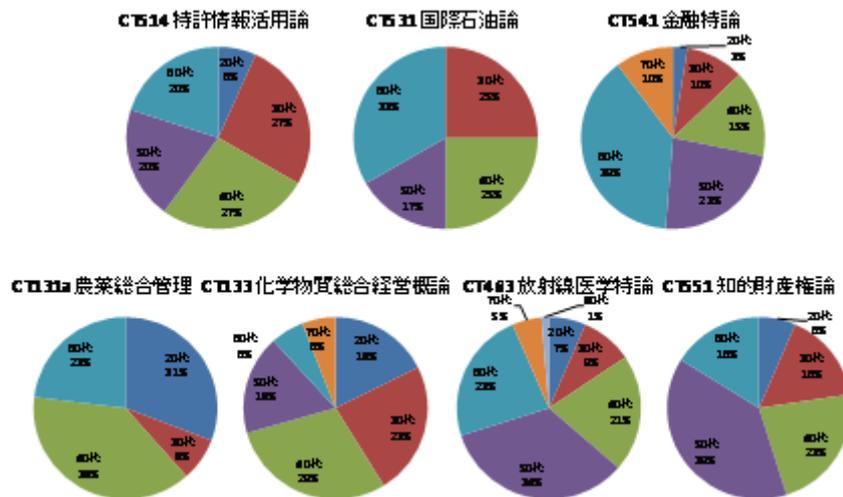


図2 応募者の属性：年齢分布（科目別）

2) 男女比については、2010年度は男性が72%、女性が28%であったのに対して、2011年度は男性が67%、女性が33%となり、女性の応募者の割合が増加した。知の市場全体では女性の割合が29%であるのに比べて、2010年度はほぼ同じであったが2011年度は女性の比率がやや高くなった。各科目別には、全科目において男性の割合が高いものの、国際石油論、金融特論、知的財産権論では男性の割合が80%前後を占めているのに対して、特許情報活用論、農薬総合管理、化学物質総合経営概論、放射線医学特論は女性の割合が3割を超えている。特に農薬総合管理は女性の割合が46%とひととき高く異彩を放っている。

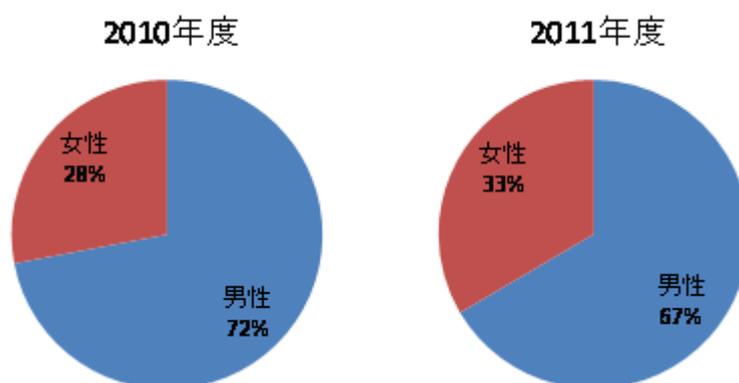


図3 応募者の属性：男女比

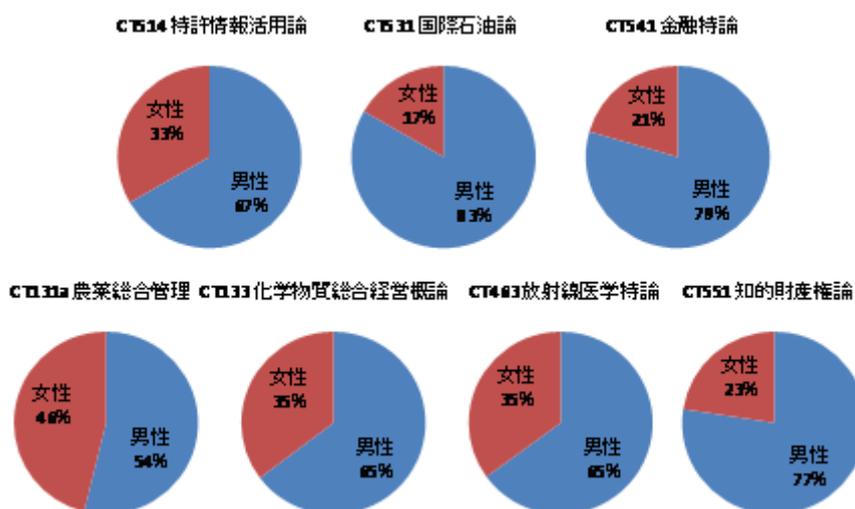


図4 応募者の属性：男女比（科目別）

3) 応募者の居住地については、2010年度は東京、神奈川、埼玉、千葉の首都圏で全体の94%を占めていたのに対して、2011年度も96%とほぼ同じであった。また、2010年度に引き続き、長野、静岡といった遠方からの応募者が少なからずあった。各科目別には、特許情報活用論、国際石油論、農薬総合管理、化学物質総合経営概論、知的財産権論は全

応募者が首都圏に居住していたのに対して、金融特論は静岡県と富山県の遠方からの応募者が6%、放射線医学特論は茨城県と長野県と静岡県の遠方からの応募者が7%を占めている。

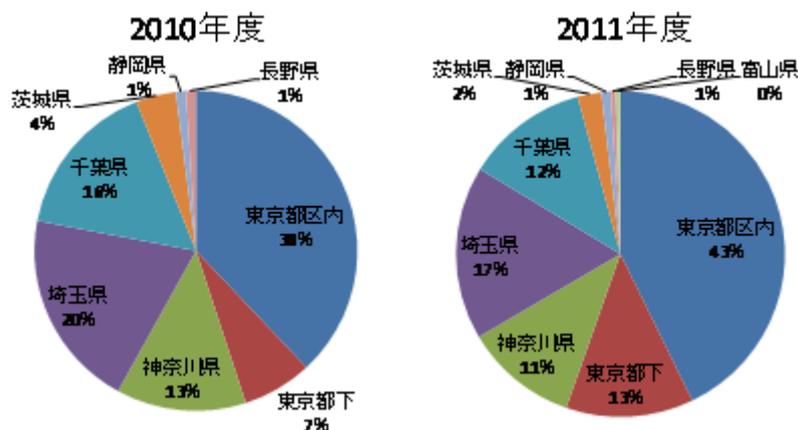


図5 応募者の属性：居住地域

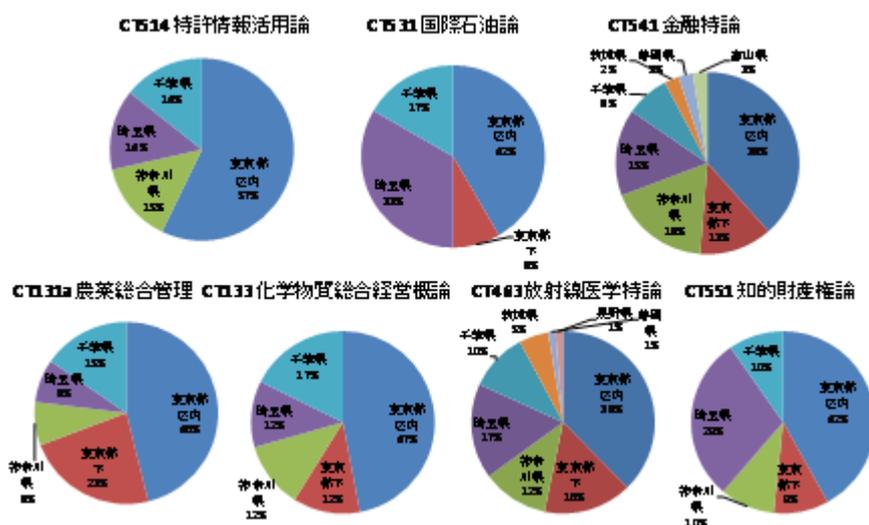


図6 応募者の属性：居住地域（科目別）

4) 業種別については、2010年度は製造業が32%と最も多かったのに対して、2011年度も製造業が30%と最も多かった。知の市場全体では製造業の割合が39%であるのに比べてやや低い割合であるが、一方知の市場全体と比べて公務員やその他の職業がやや高い割合である。各科目別には、金融特論、農業総合管理、化学物質総合経営概論では製造業の割合が最も高いのに対して、特許情報活用論、知的財産権論では第三次産業の割合が最も高い。国際石油論、放射線医学特論では、製造業及び土木・建設業の合計と第三次産業の割合がほぼ同じである。

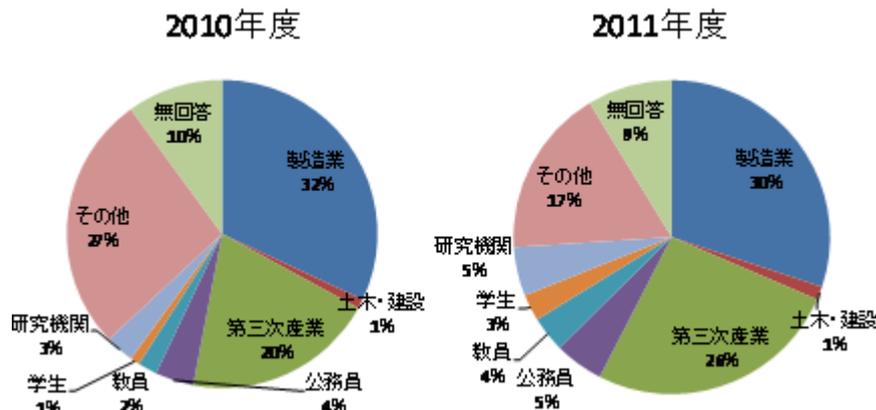


図7 応募者の属性：業種別

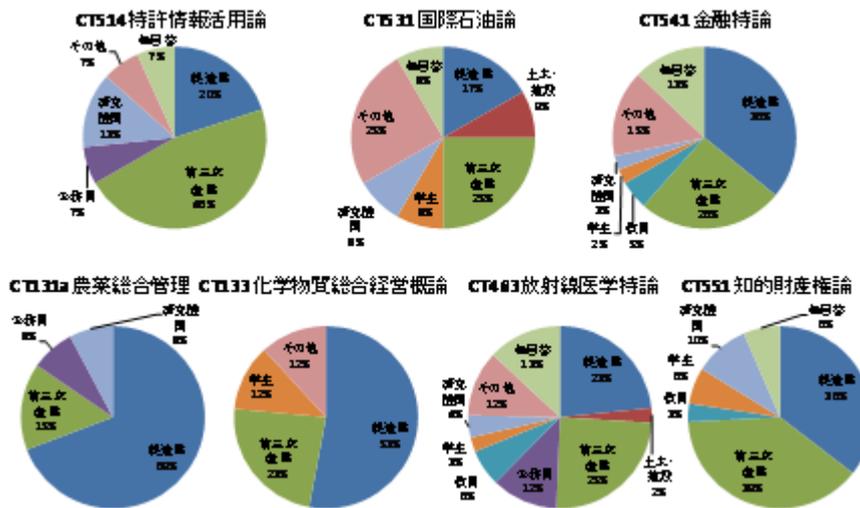


図8 応募者の属性：業種別（科目別）

### 3.2012年度の計画

#### 3.1 開講の方針と概要

2012年度もお茶の水女子大学ライフワールド・ウォッチセンター増田研究室は、これまでの基本認識を踏襲しつつお茶の水女子大学という背景を踏まえて、高度な教養教育を行うことを主眼としながらも知の市場の創始者として新規科目の開拓などによる新たな分野への展開と社会の幅広い人々や機関との間の新たな協力関係の構築など新規開拓の孵化機能及び学校教育と社会人教育を連結するといった構造改革の孵化機能を果たしていく。

2012年度に共催講座として開講する科目は7科目であり、1科目が継続科目で6科目が新規科目である。新規科目の創設は2011年度の5科目に対し、2012年度は6科目に増加する。なお、2011年度に開講した7科目のうち4科目は孵化機能の成果とともに他の開講機関に移譲され、2012年度は新たな機関のもとで開講される。

また、2012年度に関連講座として開講する科目は3科目で2011年度と同じ科目数であるが、1科目が隔年開講で入れ替わっている。そのうち2科目は知の市場の共催講座で得た知識や経験を活かしたお茶の水女子大学の学部学生を対象とした科目である。また、これまで通り、共催講座の科目は履修届を提出することによってリベラルアーツ生活世界の安全保障の科目に位置付けられ

るリスク管理(演習)を履修したものととして 2単位を取得することができる。こうして2012年度も構造改革の孵化機能を果たしていく。

表2 2012年度開講科目

| 区分   |      | 科目番号            | 科目名-副題   |
|------|------|-----------------|--|
| 共済講座 | 前期   | 新規              | CT711<br>グローバル企業特論 1<br>-グローバル企業を支える経営基盤とものづくり                   |
|      |      | 新規              | CT712<br>国際企業特論 1<br>-事業のグローバル化と石油化学産業における基本技術                   |
|      |      | 新規              | CT811<br>女性リーダー社会起業特論<br>-「社会を変える」にチャレンジする道—社会問題を解決するビジネスモデルを考える |
|      | 後期   | 新規              | CT303<br>サイエンスコミュニケーション実践論<br>-21世紀の産業技術リテラシーを考える                |
|      |      | 継続              | CT551<br>知的財産権論<br>-知的財産権の侵害にどう対処するか制度改革と企業戦略の方向を問う              |
|      |      | 新規              | CT562<br>試薬論<br>-生活と産業を支える社会インフラとしての試薬                           |
|      |      | 新規              | CT571<br>企業法基礎論<br>-現代人の基礎的素養としての企業法                             |
|      | 関連講座 | 通年              | リスク管理(演習)《学部》(注)   |
| 前期   |      | 安全管理概論 《学部》     |  |
| 前期   |      | 化学物質総合管理学 《大学院》 |  |

(注) 知の市場の共済講座のうちお茶の水女子大学で開講されるいずれかの科目を大学学部履修登録して受講した場合、リスク管理(演習)の2単位が取得できる。

### 3.2 開講科目の概要と特徴

#### 1) グローバル企業特論 1

グローバル企業へと発展した変遷と今後の展望についてリスクや特許の管理の問題、環境や地域への対応の問題を含めて事例紹介しグローバル企業としてのあり方を論じる科目を、新たな企業を連携機関として新規に開講する。

#### 2) 国際企業特論 1

石油化学産業の現状と今後の動向を踏まえつつ石油化学企業のグローバル展開の必要性について論じるとともに海外展開のリスクを管理するために必要な条件を論じる科目を、学会を連携機関として新規に開講する。

### 3) 女性リーダー社会起業特論

リーダーとしてのマインドセットを構築するとともに必要なスキルを学び、それを実践して課題に取り組む科目を、お茶の水女子大学の研究機関を連携機関として新規に開講する。

### 4) サイエンスコミュニケーション実践論

21 世紀の社会において重要な役割を担う「サイエンスコミュニケーション」の活動事例を紹介し、その理論と実践的技術を学び、産業技術社会の健全な発展につなげる科目を、新たな団体を連携機関として新規に開講する。

### 5) 知的財産権論

世界経済の自由化とともに知的財産権の重要性が益々高まる中で、そもそも知的財産権とは何なのかという問いから発して世界の知的財産権を先導してきた米国の実態などを論じる科目を、新たな国際特許事務所を連携機関として 2011 年度の開講実績を踏まえて継続科目として開講する。

### 6) 試薬論

社会基盤の構築を支え社会のリスク管理のための役割を果たす試薬の成り立ちをはじめ、各分野における試薬の役割などを解説した上で未来に向けた材料開発について考察する科目を、新たな企業を連携機関として新規に開講する。

### 7) 企業法基礎論

会社法と金融商品法を対象として企業活動と法律との関連を分析・説明し、現場の企業人としての問題意識を基礎に考えるとともに、これらの法律の基本にある法理の理解に資することをめざす科目を、お茶の水女子大学ライフワールド・ウォッチセンターを連携機関として新規に開講する。

### 8) リスク管理（演習）

共催講座の科目を受講し社会で働く社会人の中に加わり共に学ぶことによって、社会の現況に対する理解を高めて世界において自らを活かしていくための教養の深化を図る科目として、リベラルアーツ科目の位置づけでお茶の水女子大学の学部学生を対象に開講する。

### 9) 安全管理概論

化学物質の管理に必要な基本的な考え方を紹介する科目を基礎科目の位置づけでお茶の水女子大学の学部学生を対象に 2011 年度に引き続き開講する。

### 10) 化学物質総合管理学

化学物質のもたらすリスクを管理する化学物質総合管理の考え方や国際的な枠組みと動向および持続可能な発展につながる技術革新と化学物質総合管理の係わりについての今後の課題を論じる科目をお茶の水女子大学の大学院生を対象に隔年で開講する。

## 4. 今後の方針

知の市場の創始者として長年の活動の中で培ってきた経験と信頼を基礎に、新規開拓や構造改革の孵化機能をさらに高めていく。